地域の子ども見守る場に

深川に無料休憩所オープン

「たどしカフェ」住民の交流期待



▲ ガラス張りの室内でくつろぐ子どもたちを見守る殿平さん（右端）

【深川】市内多度志地区の国道275号沿いに、無料休憩所「たどしカフェ」がオープンした。放課後の子どもの遊び場として、また働く大人の休憩所として利用できる。ただし認定こども園「かぜっこ」を運営する社会福祉法人多度志保育会が8日に開設。地域住民からアイデアを募りながら施設の活用方法を広げていく予定だ。園長の殿平真さん(47)は「住民みんなで子どもを見守る場所に―を合言葉に、施設の魅力を高めたい」としている。

「コーヒー飲みますか？」。12日夕、カフェの中に入ると、小学生に声をかけられた。「お気持ちBOX」と書かれた箱に現金を入れると、マシンが抽出するコーヒー、菓子、ジュースを味わえる。この日は放課後の学童クラブの指導員と共に訪れた多度志小の児童4人が、かくれんぼしたり、腕立て伏せをしたりして遊んでいた。

宿題に取り組んでいた同小3年竹田岳斗（やまと）さん(9)は「両親は稲刈りで忙しい。でもここに来れば友達と自由に過ごせるから寂しくない」と話す。

カフェは国道と深川多度志線、旭川多度志線が交わる交差点の一角にあり、観光目的の自転車やバイク、運輸会社のトラックなどが行き交う。同地区にはコンビニエンスストアはあるが、気軽に休憩できるカフェのようなスペースがなかった。

カフェは築約50年の木造2階建て。元々、定食屋だった空き家の1階部分、約150平方㍍を改装した。大人数で飲食できるテーブルを置いたメインフロア、調理ができるキッチン、作品を展示したり、転んでもケガしないようじゅうたんを敷いたキッズルームなどに分けた。土足のまま入れて、おむつ替え用の台を備えたトイレもある。

外壁は一部ガラス張り。外から出入りできる網戸を設け開放感がある。改装の設計を手がけた1級建築士の山本郁江さん(40)＝沼田町在住＝は「外から室内が見えることで入りやすくなる」と話す。

今後は、多目的和室に据え付けたプロジェクターで、プロ野球北海道日本ハムファイターズ戦のパブリックビューイングや映画観賞会を開くなど、地域住民の集いの場としての活用も視野に入れる。また、取れたて野菜を売る農産物直売所、住民が俳句や手芸品を展示する趣味の発表の場としての活用も模索する。

殿平さんは「過疎化や少子化が進み、少しずつ小さくなっていく多度志地区に、再び人々の交わりやにぎわいが生まれるのを期待したい」としている。

不定休。午前8時ごろ解錠し、午後6時ごろ施錠する。（出井一彰）

【北海道新聞 2024/9/14 朝刊 空知版】